

ブラックロック・ グローバル・バランス・ファンド

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第46期(2021年12月16日決算)

作成対象期間(2021年6月17日～2021年12月16日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・グローバル・バランス・ファンド」は、このたび、第46期決算を行ないました。

当ファンドは、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指して運用を行ないました。当期につきましても、これに沿った運用を行ないました。

ここに、運用経過について、ご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号

丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問合わせ先

電話番号:03-6703-4300

(受付時間 営業日の9:00～17:00)

ホームページアドレス

www.blackrock.com/jp/

第46期末(2021年12月16日)

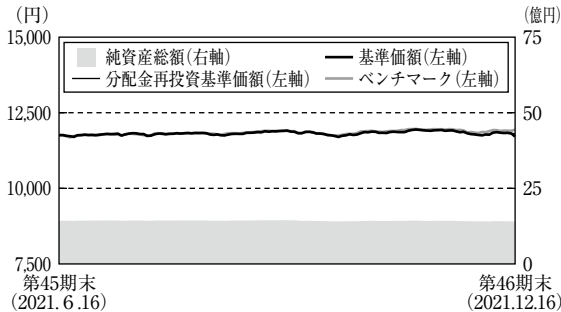
基準価額	11,710円
純資産総額	1,395百万円
騰落率	0.4%
分配金	100円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について（第46期：2021年6月17日～2021年12月16日）



第46期首：11,761円

第46期末：11,710円(既払分配金100円)

騰落率：0.4%(分配金再投資ベース)

- * 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- * ベンチマークは、複合インデックスです。詳細につきましては後記をご覧ください。
- * 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は+0.4%となりました。当期、内外株式市場が上昇するなかブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンドが上昇したことが当ファンドの基準価額の主な上昇要因となりました。また、ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンドは米ドル建てのため、為替市場で円安ドル高となったことも基準価額の上昇に寄与しました。

■投資対象ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	0.8%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	0.9%
日本債券マザーファンド	0.3%
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド	2.2%
ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オプチュニティズ・ファン	-0.3%

* ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンドは米ドル建てであるため、米ドルベースの騰落率を記載しております。

■ 1万口当りの費用明細

項目	第46期		項目の概要
	(2021. 6. 17～2021. 12. 16)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 89	% 0.755	信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は11,821円です。
(投信会社)	(44)	(0.375)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(42)	(0.358)	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(3)	(0.022)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.001	売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 / 期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	2	0.013	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.008)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(1)	(0.006)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	91	0.770	

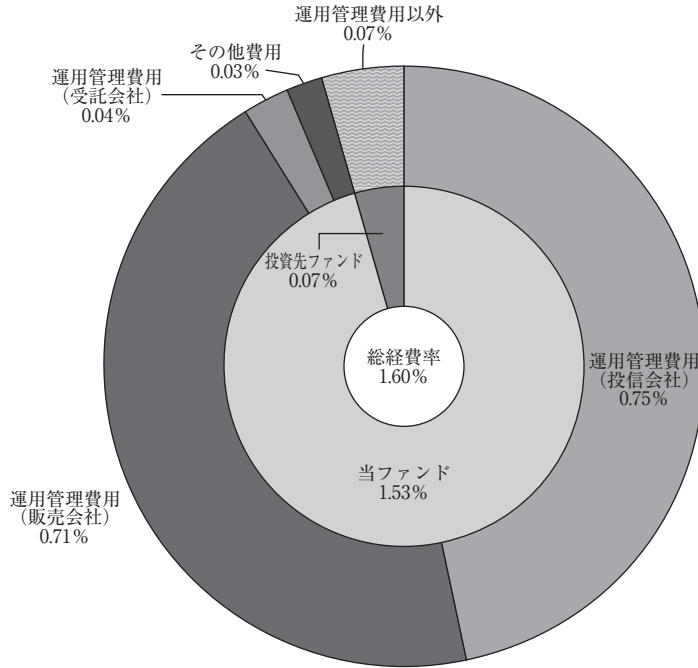
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.60%です。

総経費率(①+②+③)	1.60%
①当ファンドの費用の比率	1.53%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

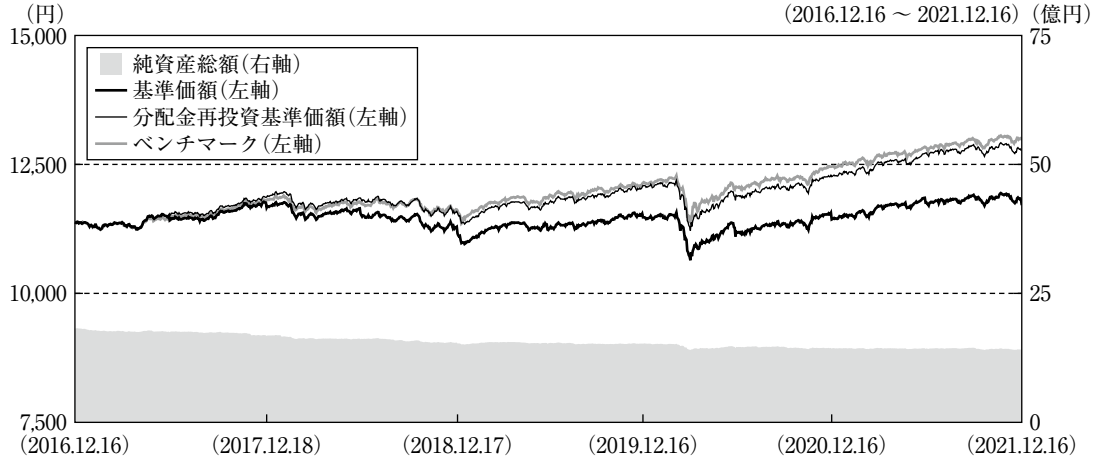
(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2016年12月16日の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2016年12月16日 期初	2017年12月18日 決算日	2018年12月17日 決算日	2019年12月16日 決算日	2020年12月16日 決算日	2021年12月16日 決算日
基準価額(分配前) (円)	11,378	11,662	11,160	11,474	11,433	11,710
期間分配金合計(税込み) (円)	-	200	200	200	200	200
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	4.3	△ 2.6	4.6	1.4	4.2
複合インデックス騰落率(%)	-	3.8	△ 1.8	4.6	2.6	4.6
純資産総額 (百万円)	1,811	1,674	1,528	1,520	1,427	1,395

* ベンチマークは、複合インデックスです。

複合インデックスは、以下の指標をそれぞれの割合で合成した指数です。国内債券：NOMURA-BPI50%、外国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)10%、同インデックス(除く日本、円ヘッジ円ベース)10%、国内株式：TOPIX(東証株価指数)10%、外国株式：MSCIコクサイ指数(円換算ベース)10%、短期金融商品：無担保コール翌日物10%。

なお、ベンチマークを構成する指数は、各種金融機関等で公表されており、その機関等の知的財産です。またこれらの機関等は、当ファンドの運用成果等に関する一切の責任を負いません。

投資環境について

当期(2021年6月17日～2021年12月16日までの6ヶ月間)は、主要国で経済再開の動きへの楽観が高まり、市場のリスク選好姿勢が維持された一方で、新型コロナウイルスのデルタ株の世界的な感染拡大、中国当局による規制強化、供給制約が長期化する中でのインフレ圧力への警戒感とそれに伴う主要中央銀行によるテーパリング(金融緩和縮小)観測などが材料視され、金融市場はボラティリティ(変動性)の高い展開となりました。特に9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)後には、市場がタカ派の受け止めたことで国債利回りが急上昇(価格は低下)し、株式市場も調整しました。その後、期末に向かい、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」への懸念が拡大し、再び市場のリスクオフが強まる場面も見られました。

<内外株式市場動向>

株式市場は、米国S&P500種株価指数が前期末の4223.70から当期末に4668.67へ上昇、また、東証株価指数(TOPIX)は前期末の1975.86から当期末に2013.08へと上昇しました。

<内外債券・為替市場動向>

債券市場では、日本10年国債利回りは、前期末の+0.05%から当期末には+0.05%と、横ばいとなりました。米国10年国債利回りは、前期末の+1.58%から当期末には+1.41%へと低下しました。またドイツ10年国債利回りは、-0.25%から当期末には-0.35%へと低下しました。

為替市場では、ドル/円は前期末の110.16円から当期末は114.21円と円安ドル高、ユーロ/円は前期末の133.57円から当期末は128.84円へと円高ユーロ安となりました。

ポートフォリオについて

<当ファンド>

投資環境を反映し各資産のベンチマーク・リターンは国内債券が+0.27%、国内株式が+1.88%、外国債券ヘッジ付きが+1.00%、同ヘッジなしが+0.57%、外国株式が+9.68%となりました。当ファンドの資産配分においてはほぼ中立での運用を行ないました。

投資先ファンドにおける運用経過は以下の通りで

す。

<日本債券マザーファンド>

中期ゾーンを中心に下に凸のカーブ形状や中期的にイールドカーブのステイプ化余地大との見方等を背景に、10年近辺のオーバーウェイト、中期セクターおよび超長期セクターのアンダーウェイト、また、ポートフォリオの平均デュレーションについて概ね中立を維持しました。セクター配分については、引き続き政地債のアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持しました。事業債や円建外債等の信用リスクを伴う債券のセクターウェイトに関しては、日銀の社債買い入れの影響やプラス利回りへの選好等から国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないこと等から、デュレーション調整後で概ね中立から小幅アンダーウェイトを維持しました。

<ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

デュレーション戦略に関しては、経済再開期待の高まり、金融政策の早期正常化期待などが金利の上昇要因になると見込み、ポートフォリオ全体のデュレーションを概ねアンダーウェイトとしました。

米ドル圏では、バリュエーションや市場における一連のリスク要因を鑑みた取引を行うなかで、デュレーションを機動的に調整しました。当期前半においては、米国連邦準備制度理事会(FRB)が緩和的なスタンスを示すなか、経済指標の改善、米国経済の力強い回復、巨額な財政出動に伴う国債発行量の増加などを背景に金利は上昇すると想定し、米国のデュレーションはアンダーウェイトで維持しました。その後も、経済再開基調の継続、金融政策の早期正常化期待、などを背景に米国金利が上昇しやすい環境が続くと見込みデュレーションをアンダーウェイトで維持していたなか、9月末頃にかけて金利が大きく上昇したことからアンダーウェイトを徐々に削減し、足元ではほぼ中立としました。

ユーロ圏については、周辺国のオーバーウェイトを中心に維持しつつ、機動的な調整を行いました。当期初、周辺国については、欧州復興基金の恩恵、欧州中央銀行(ECB)による買入拡大などを見込み、イタリアやスペインのオーバーウェイトを維持しました。11月頃からは、周辺国のスプレッドがそれまでに

大きく縮小したことや、ECBによる買い入れ縮小などに鑑みオーバーウェイトを徐々に削減し、足元にかけては概ね中立としました。ドイツ金利については引き続き機動的に調整しつつ、当期初からアンダーウェイトを徐々に削減し足元ではほぼ中立としました。

セクター配分戦略に関しては、健全なファンダメンタルズや良好な需給環境がポジティブな材料になると見込み、米国投資適格社債への小幅な配分を維持しました。米国投資適格社債などの高格付資産はスプレッドが大きく縮小し割安感は後退したものの、個別銘柄のバリュエーションに着目し同ポジションを維持しました。欧州投資適格社債については非保有を維持しました。

パフォーマンスについては、米国利回りカーブのポジショニングや、9月中旬ごろに利益確定とした欧州周辺国のデュレーションのポジショニングがプラスに寄与しました。一方、当期を通して長期・超長期部分を中心に米国金利が低下したこと、米国デュレーションのアンダーウェイトがマイナスに寄与しました。また、米国投資適格社債に対する小幅な配分もややマイナスに寄与しました。

<ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド>

当期、資本財・サービス、一般消費財・サービス、ヘルスケアセクターの銘柄選択がパフォーマンスのプラス要因となりました。一方でコミュニケーション・サービス、生活必需品、情報技術セクターの銘柄選択がパフォーマンスのマイナス要因となりました。個別銘柄では、ケイデンス・デザイン・システムズ、サーモフィッシャーサイエンティフィック、インテュイットがプラスに寄与した一方で、Locaweb、TモバイルUSがマイナスに寄与しました。また、アップルを非保有としていたこともマイナスに寄与しました。当期、主な投資行動としては、モンデリーズ・インターナショナルの売却などにより、生活必需品セクターの組入れを引き下げました。また、コミュニケーション・サービスと情報技術セクターの組入れも引き下げました。一方、資本財・サービスセクターの組入れを引き上げました。また、資本市場関連や消費者金融関連を中心に金融セクターの組入れを引き上げました。個別銘柄では、Evoqua Water Technologies、ロジテック・インターナショナルを新規に購入しま

した。期末時点では、情報技術、金融、ヘルスケアセクターの組入れを高位としており、これらのセクターはポートフォリオの半分程度を占めています。

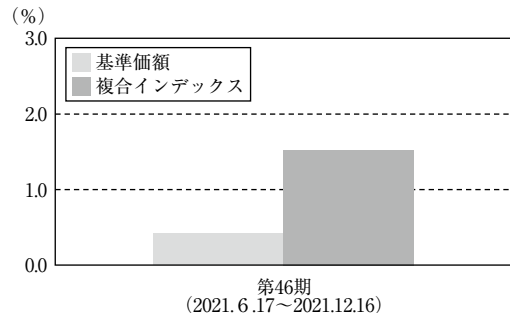
<ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

当期の国内株式市場は、国内における新型コロナウイルス感染状況が落ち着きをみせる中で企業業績の改善や新政権による経済対策への期待が高まったことなどから9月中旬にかけては上昇しました。しかしながら、インフレの長期化懸念に伴い米国金融政策が従来よりもタカ派的な色彩を帯びてきたことが警戒された他、新型コロナウイルス変異株の感染拡大の影響への懸念などが上値を抑える形となり、結果として前期末対比では上昇となったものの期末にかけては神経質な展開が続きました。このような環境下で、株価上昇となった銘柄等を売却した一方で、今後の業績回復を評価した銘柄等を購入しました。また、脱炭素社会への取り組みなど外部環境の変化に伴い今後の成長期待が高まった銘柄等がパフォーマンスに貢献した一方で、市場期待を下回る業績進捗に留まった銘柄等がパフォーマンスにマイナスの影響を与えました。

ベンチマークとの差異について

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は、+0.4%となり、ベンチマークである複合インデックスは、+1.5%となりました。

【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



分配金について

収益分配は基準価額水準、市場動向等を勘案して、1万口あたり100円とさせていただきます。留保益

の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行ないます。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期
	2021年6月17日 ~2021年12月16日
当期分配金(税込み)	100円
対基準価額比率	0.85%
当期の収益	47円
当期の収益以外	52
翌期繰越分配対象額	2,182

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

<内外株式市場に関する市場見通し>

日本株式市場については、外国人投資家の売買によって方向性が左右される傾向が強い為、海外投資家にとって投資妙味があるかという点が重要とみられます。良好なファンダメンタルズ動向、政府の成長戦略を重視した経済政策への舵取り、相対的に割安なバリュエーションなどが材料視されつつある一方、需給面でカギを握る海外投資家の動きが鈍い場合には、日本株式市場のアウトパフォーマンスは見込まれないと考えられます。

外国株式市場については、オミクロン株の感染拡大による各国の移動制限措置の強化や、これに伴う民間消費支出の減少を、市場が一定程度は織り込みつつあるとみられます。一方で、短期的には、「利上げの年のスタート」が意識される中で、市場のセンチメントは慎重になりやすいと思われ、オミクロン株の感染状況や主要国での金融政策の展開を見極めながら、市場の方向性が決まって来るものと思われま

<内外債券・為替市場に関する市場見通し>

国内債券市場については、大幅な国債増発にもかかわらず、日銀が、イールドカーブ・コントロール政策の下、国債買入れを継続していくこと等を背景に、

国債利回りは低位でのレンジ形成が継続する可能性が高いとみています。超長期セクターについては、2020年7月以降の国債増発に際しての買入れスタンスや21年3月の政策点検後の買入れ日程および金額の変更にも見られたように、日銀はフラット化回避の姿勢を続けると思われます。

先進国債券市場については、米国債は、依然として利回りが低水準にあるとみられ、バリュエーションの観点での投資妙味が薄れていると思われま

中長期的には、市場が経済再開を織り込むことで利回りが上昇する可能性が高いとみられます。欧州国債は、ECBがテーパリング開始を示唆しているものの、急激な転換の可能性は低いと見られ、ドイツ国債の利回りは依然として低水準で推移すると見ています。今後、オミクロン株の感染拡大による経済への影響、インフレ動向、中央銀行の政策方針などが、注視されま

<今後の当ファンド資産配分戦略予定>

前述の見通しに従って、全資産をベンチマークに対して概ね中立として運用する方針です。

投資先ファンドにおける今後の運用方針は以下の通りです。

<日本債券マザーファンド>

中期ゾーンを中心とする下に凸のカーブ形状やカーブ全体に中期的にスティープ化余地大との見方を背景に、10年近辺のオーバーウェイト、中期セクターおよび超長期セクターのアンダーウェイトを中心とする残存期間構成を維持します。ポートフォリオのデュレーションについては、ベンチマーク対比概ね中立とします。セクター配分については、現状のタイトなスプレッド水準や金利ボラティリティ拡大時のスプレッド拡大の可能性等を踏まえ政地債のアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持します。信用リスクを伴う債券のセクターウェイトについては、国内発行体の中長期かつ広範なクレジット悪化局面とは考えないものの、日銀の社債買入れの影響やプラス利回りへの選好等から国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないこと等を鑑み、事業債、金融債、円建外債あわせて中立～小幅アンダーウェイトとします。

<ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

グローバル経済は、大規模な金融緩和・財政政策の継続、ワクチン接種進展への期待、失業率等の経済ファンダメンタルズ回復期待を背景に、2021年は非常に強い経済成長率をベースシナリオと見ます。一方、ウィルスの感染動向による移動制限、FRBによる金融政策と強い経済回復とのミスマッチが生じる可能性、また、米中を中心とする貿易摩擦再燃の可能性といった一連のリスク要因には十分留意します。

FRBの政策スタンスに変化が見られており、米国金利は、今後想定される利上げサイクルの見通しや、巨額の財政出動を背景とした国債発行量の増加などを勘案すると、利回りのレンジは徐々に切り上がっていきと見ており、デュレーションはアンダーウェイトを基本とします。

ユーロ圏については、ECBおよび政策当局による大規模な景気刺激策が継続されると考えます。ECBについては、長期で政策金利が据え置かれると見ており、金利は低位で推移すると予想しますが、経済指標は改善してきており、今後の政策変更にも備え機動的に対応します。また大規模な財政政策も打ち出され、欧州周辺国は恩恵を受けると想定、スプレッド縮小の可能性があるイタリアをオーバーウェイト、フランス等のスプレッド縮小の余地が小さい国をアンダーウェイトとしつつ、機動的に調整します。

セクター配分戦略については、社債は、割安感が後退していますが、景気回復と根強いインカム需要に支えられ、堅調に推移すると考えます。また、FRBが経済指標を鑑みながら政策を柔軟に調整していくことは、中長期的にはリスク資産にプラスと判断します。一方、ボラティリティ上昇が社債スプレッド拡大に繋がる可能性もふまえ、リスク量を押しえつつ、前向きなスタンスを維持します。

<ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド>

2022年についても、2021年に見られたインフレ率の上昇が続くことが予想されます。また、中期的には、供給確保のための追加的な設備投資に伴い、利益を維持するための価格引き上げが必要となることが予想されます。全ての企業がインフレを価格に転嫁できるわけではなく、このような環境の中で、価格決定力のある優良企業に注力することが重要と考えます。

これまで通り、マクロ経済の不透明性は、十分に対応力のある企業にとってはチャンスとなります。当ファンドでは、競争力のあるポジション、持続可能なリターン、安定したバランスシート、価値を生み出すための再投資能力を備えた企業を選定することに引き続き注力します。2020年がもたらした経済、政府、社会に対する影響に企業は何年もかけて適応していかなければならないと考えています。こうした見通しから、ファンダメンタルが良好な企業が引き続きアウトパフォームする大きな機会があると考えており、これを実現する上で最も優位な立場にあると判断した企業への投資を継続する方針です。

<ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

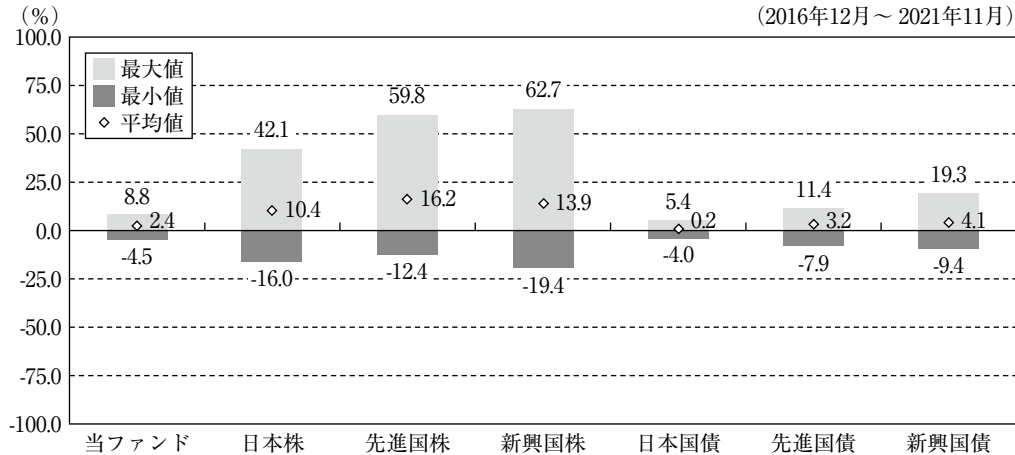
当面は、新型コロナウイルス変異株にかかる新規感染者数の動向や物価上昇に伴い世界の中央銀行による今後の正常化に向けた金融政策の変化が市場に変動を与える可能性が注目されます。また、銘柄選別においては、コロナ禍において業界構造が変容した業界もあること等から、これらが業績に与える影響等を注視していく必要があると考えています。特に投資家の注目度が低い中・小型株式市場は、潜在的な利益成長の可能性があるにもかかわらず、低位なバリュエーション水準に放置されている企業が散見される他、独自の成長を続けている企業も多く、依然として魅力的な投資対象であると考えています。引き続き、従来の価値観にとらわれることなく、産業構造や個別企業の「変化」にいち早く着目し、未だ市場において認識されていない高い成長の可能性を持つと考えられる銘柄を積極的に組み入れていきたいと考えています。

◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限(設定日:1998年12月1日)	
運用方針	投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用によりリスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。	
主要投資対象	投資対象ファンドは、別に定めるブラックロック・グループの運用会社が運用する投資信託証券で、原則としてアクティブ運用により付加価値を追求する投資信託証券から選定します。	
	証券投資信託 (親投資信託)	<p>【日本債券マザーファンド】 日本の公社債</p> <p>【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。</p> <p>【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。</p> <p>【日本株式マザーファンド】 日本の株式</p>
	ルクセンブルグ籍 外国投資証券	<p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式</p> <p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式</p> <p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式</p>
運用方法	<p>①投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。資産配分については、定期的に見直しを行いません。</p> <p>②ファンド・オブ・ファンズ形式による運用を行いません。</p> <p>③外貨建資産については、為替ヘッジによるリスクの低減を図ります。為替ヘッジ(親投資信託における為替ヘッジならびに投資対象ファンドにおいて円に対する為替ヘッジが行なわれている場合はこれを含みます)を行なわない部分を信託財産の純資産総額の原則として30%程度までとします。</p>	
分配方針	<p>年2回の毎決算時(6月16日、12月16日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買損益(評価損益も含みます。)等の全額とすることができます。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行なわないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*上記は、2016年12月～2021年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

*各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(東証株価指数、配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場されている全銘柄を対象に時価総額を指数として算出したものです。東証株価指数(配当込み)は、株式会社東京証券取引所((株)東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。(株)東京証券取引所は、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の停止または東証株価指数(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行なう権利を有しています。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

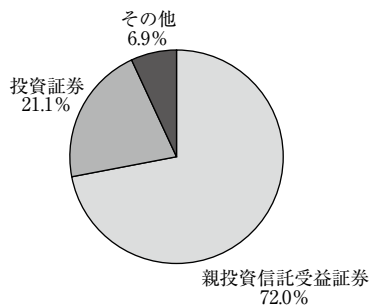
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

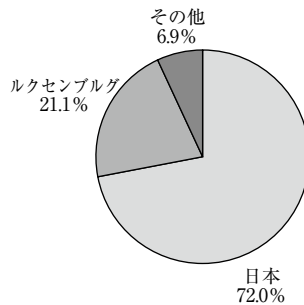
	比率
日本債券マザーファンド	44.1%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	14.1
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	13.8
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド	11.3
ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド	9.8
その他	6.9

(注) 比率は第46期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

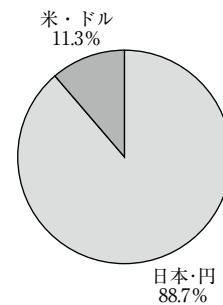
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第46期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

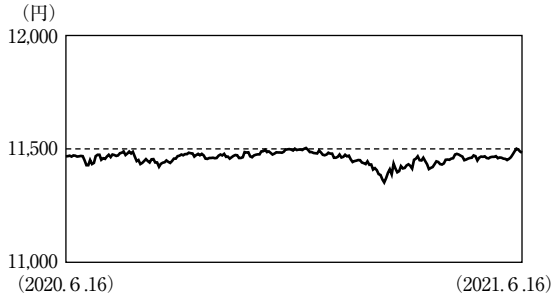
項目	当期末	
	2021年12月16日	
純資産総額	1,395,194,454円	
受益権総口数	1,191,504,146口	
1万口当り基準価額	11,710円	

* 当期中における追加設定元本額は31,193,215円、同解約元本額は50,381,781円です。

■組入ファンドの概要

◆日本債券マザーファンド

○基準価額の推移



○上位10銘柄

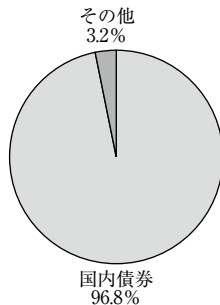
銘柄名	通貨	比率
359 10年国債	日本・円	37.7%
420 2年国債	日本・円	15.2
24 30年国債	日本・円	12.5
166 20年国債	日本・円	9.9
62 30年国債	日本・円	6.8
17 道路機構	日本・円	2.6
49 クレディセゾン	日本・円	1.2
11三菱UFJ信託BK	日本・円	1.2
416 中国電力	日本・円	1.2
29-3 広島県公債	日本・円	1.2
組入銘柄数	17銘柄	

○1万口当りの費用明細

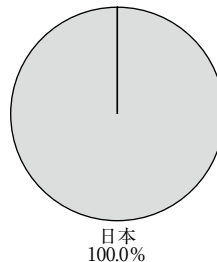
(2020.6.17~2021.6.16)

項目	当期
	円
(a) 売買委託手数料	-
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (その他)	0 (0)
合計	0

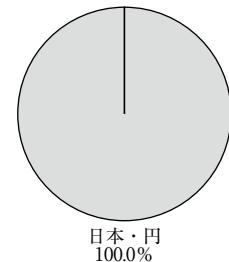
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

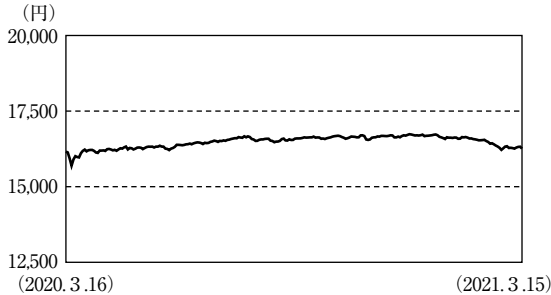
(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

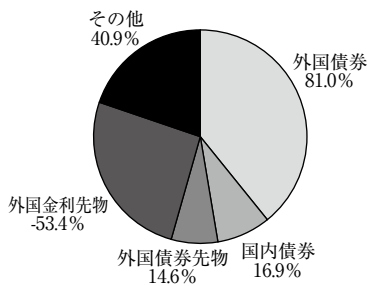
銘柄名	通貨	比率
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 0.125% 2022/06/30	米・ドル	6.6%
UNITED STATES TREASURY BILL 2021/03/23	米・ドル	4.4
BUNDESSCHATZANWEISUNGEN 0% 2021/06/11	ユーロ	3.4
130 20年国債	日本・円	3.2
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.125% 2022/02/28	米・ドル	2.2
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.25% 2026/12/01	ユーロ	2.0
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 1% 2027/05/25	ユーロ	1.8
SPAIN GOVERNMENT BOND 0.25% 2024/07/30	ユーロ	1.7
FRANCE GOVERNMENT BOND OAT 4.5% 2041/4/25	ユーロ	1.7
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.25% 2024/08/31	米・ドル	1.6
組入銘柄数	284銘柄	

○1万口当りの費用明細

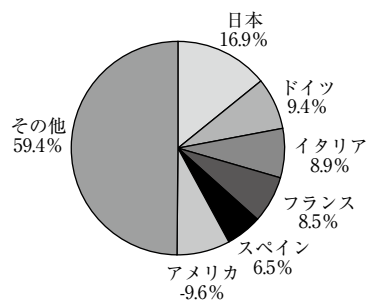
(2020.3.17~2021.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	1円 (1)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	11 (10)
(その他)	(0)
合計	12

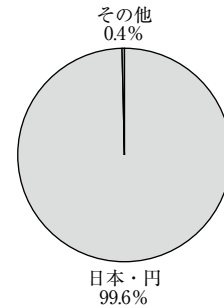
○資産別配分



○国別配分



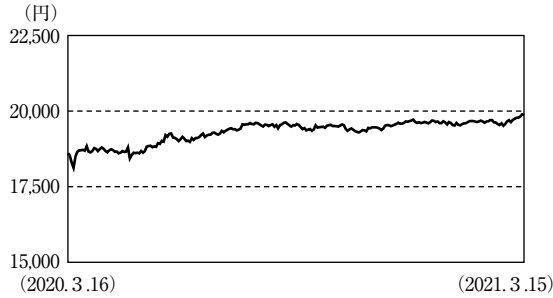
○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。
 (注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。
 (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
 (注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。
 (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 *組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

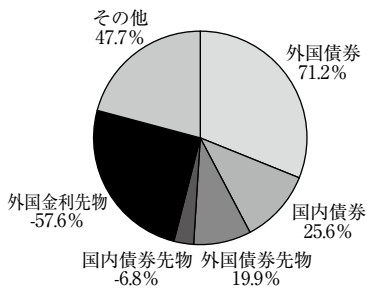
銘柄名	通貨	比率
UNITED STATES TREASURY BILL 2021/03/23	米・ドル	7.4%
130 20年国債	日本・円	5.9
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 0.125% 2022/07/31	米・ドル	4.1
131 5年国債	日本・円	3.6
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2024/03/25	ユーロ	2.2
356 10年国債	日本・円	1.9
339 10年国債	日本・円	1.8
SPAIN GOVERNMENT BOND 1.4% 2028/04/30	ユーロ	1.6
406 2年国債	日本・円	1.6
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.6% 2026/06/01	ユーロ	1.6
組入銘柄数		240銘柄

○1万口当りの費用明細

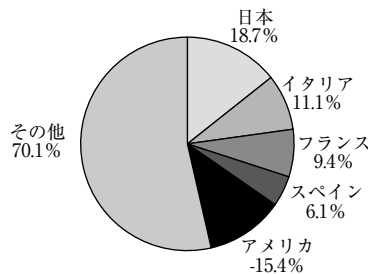
(2020.3.17~2021.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2円 (2)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用)	16 (15)
(その他)	(0)
合計	17

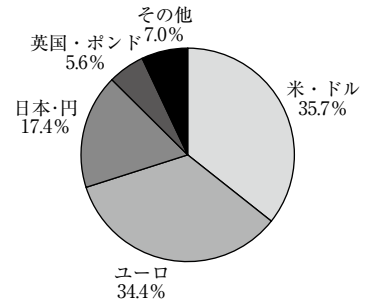
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

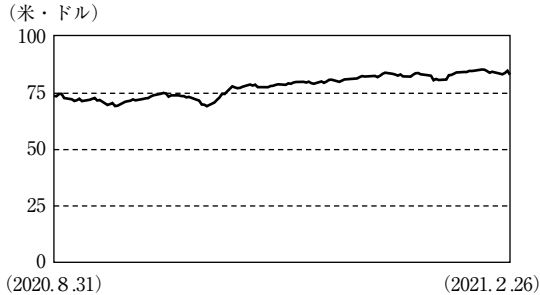
(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・ロングホライズン・エクイティ・ファンド

○基準価額の推移



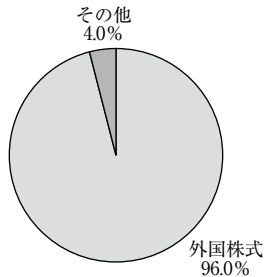
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
MASTERCARD INC CLASS A	米・ドル	6.7%
RECKITT BENCKISER GROUP PLC	英国・ポンド	5.9
MICROSOFT CORP	米・ドル	5.4
UNITEDHEALTH GROUP INC	米・ドル	4.7
BOSTON SCIENTIFIC CORP	米・ドル	4.7
OTIS WORLDWIDE CORP	米・ドル	4.7
MONDELEZ INTERNATIONAL INC CLASS A	米・ドル	4.5
WALT DISNEY	米・ドル	4.4
AMAZON COM INC	米・ドル	4.0
T MOBILE US INC	米・ドル	3.7
組入銘柄数	32銘柄	

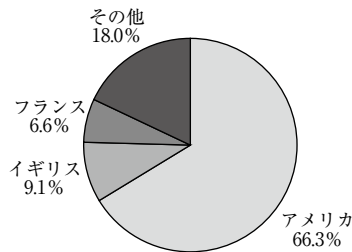
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

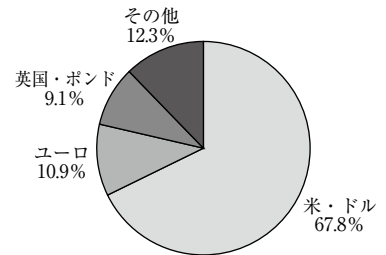
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

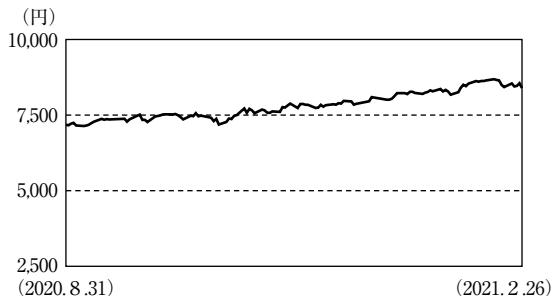
(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド

○基準価額の推移



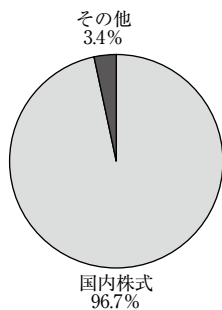
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
芝浦機械	日本・円	2.7%
カネカ	日本・円	2.6
ハウス食品G本社	日本・円	2.3
ラウンドワン	日本・円	2.2
東京建物	日本・円	1.9
日本郵船	日本・円	1.9
大和ハウスリート	日本・円	1.8
パーソルホールディングス	日本・円	1.8
三越伊勢丹HD	日本・円	1.7
ふくおかフィナンシャルG	日本・円	1.7
組入銘柄数	91銘柄	

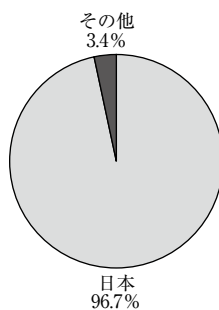
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

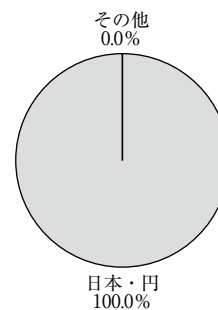
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。